

ストーカー

断たれぬ「負の連鎖」

▶▶下

ち上げる。

米では強制入院も

精神科医で、NPO法人
「性障害専門医療センター」

「ピザを大量に注文されま
したか?」

福岡県内の大学の研究室で
働く男性(42)に、宅配ピザ店

から電話があったのは、平成
23年の春。男性の名前で大量

の注文が入ったというが、身
に覚えがないので即座に断つ
た。

男性は、神奈川県逗子市で
昨年11月、元交際相手の男(40)
に刺殺された三好梨絵さん(同33)の兄。後
日、梨絵さんに電話で顔未を
伝えると、「ごめんね。スト
ーカーのせいだ」と弱々しい
声で何度も謝られた。

梨絵さんは18年「ころから警
察に男からの被害を相談し、
兄も話を聞かされていたが、
声で何度も謝られた。

妹失つた兄 検証の日々

かかった」。ピザの一件から間もなく、男は脅迫容疑で逮捕され、執行猶予付きの有罪判決を受けた。だが、保護観察中に梨絵さんを殺害して自殺し、真相は闇に葬られた。警察が介入しながら防げなかつた悲劇に、兄は「どうしたら梨絵を救えたのか」と自己回答を繰り返した。刑法や犯罪学などの専門書を40~50冊読み、ストーカー問題の専門家に尋ね、答えを求めてきた。

「被害者を一度と出さないためには、警察の介入や厳罰だけではなく、加害者対策が必要では」。事件から1年を迎えて、こう結論づけた。年内には専門家を父え、梨絵さんとの事件を検証する研究会を立てるからだという。

福井氏はこうした加害者の特異な傾向を「ストーカー病」と名付け、認知療法でのアプローチが有効だとみている。認知療法は、思い込みと現実のギャップを認識させるからだ。一方、専門家は、被害者にも被害を深刻化させないための自衛策を求める。

ストーカー問題に取り組む調査会社「SP解決センター」(東京)は、インターネットの交流サイト「フェイスブック(FB)」や短文投稿サイト「ツイッター」、スマートフォンの無料通話アプリ「LINE(ライン)」を通じた被害の広がりに着目する。FBで「友達」だけに閲覧を制限しても、第三者を装う元交際相手を友達として閲覧を許可(承認)し、飲み会などの行動を把握されたケースもある。東京・三鷹の事件でも、池永チャールストーマス被告(21)が女性になりすまし、ラインで鈴木沙彩さん(18)の友人にメッセージを送っていた。

常磐大学大学院の諸沢英道教授(被害者学)は「ストーカー対策は警察の意識改革に加え、加害者対策や被害者の啓発など、自治体や民間団体を巻き込み、社会全体で取り組む必要がある」と指摘している。

逗子ストーカー殺人事件 神奈川県逗子市で昨年11月、デザイナーの三好梨絵さんが元交際相手の男に刺殺された。三好さんは結婚していたが、男が平成23年6月に脅迫容疑で逮捕された際に、神奈川県警が結婚後の名字や住所を伝えてしまっていた。男からは1000通超のメールが送られていたが、当時はストーカー規制法の対象外で、今年7月にメールも規制対象とする改正法が施行された。

インターネット利用の際の注意点 ～ストーカー被害を防ぐために～



▶自宅や職場の様子や周辺の写真など、生活行動パターンを特定できる情報をネットに掲載しない



▶ソーシャル・ネットワーキング・サービス(SNS)利用の際は、「知り合いの知り合いは他人である」との認識を持ち、見ず知らずの人に対して安易に「友達」承認をしない



▶スマートフォン(高機能携帯電話)用のアプリケーションの中には、写真をネットに掲載する際に、撮影した位置情報も一緒に書き込む機能を持つものもある。こうしたアプリのインストールに注意する



▶出会い系サイトで知り合った人と安易に会わない

▶メールアドレスや電話番号など連絡の交換を強要する人とは交際しない

警察庁は加害者の更生に向けた対策を本格化させることで、来年度予算の概算要求に約1100万円を計上している。加害者のカウンセリング費に充て、「先進国」で現地調査を行う。

深刻化避けるには

一方、専門家は、被害者にも被害を深刻化させないための自衛策を求める。

ストーカー問題に取り組む調査会社「SP解決センター」(東京)は、インターネットの交流サイト「フェイスブック(FB)」や短文投稿サイト「ツイッター」、スマートフォンの無料通話アプリ「LINE(ライン)」を通じた被害の広がりに着目する。

FBで「友達」だけに閲覧を許可(承認)し、飲み会などの行動を把握されたケースもある。東京・三鷹の事件でも、池永チャールストーマス被告(21)が女性になりすまし、ラインで鈴木沙彩さん(18)の友人にメッセージを送っていた。

常磐大学大学院の諸沢英道教授(被害者学)は「ストーカー対策は警察の意識改革に加え、加害者対策や被害者の啓発など、自治体や民間団体を巻き込み、社会全体で取り組む必要がある」と指摘している。

連載は荒船清太、中村翔
樹、西尾美穂子、宇都宮想が担当しました。